

花匂う

山本周五郎著 新潮文庫

2009年5月



東田陽博教授

(子どものこころの発達研究センター長)

大学生の頃は自分に自信が持てず、自己卑下や自己否定の連続であると思う。苦しい精神の葛藤と未来が見えてこない事で焦燥の中に居る事と推測する。山本周五郎の小説には、驚くばかりの、現実肯定の世界が描かれている。弱い者やいと小さき者への愛があふれている。周五郎の描く男女の世界には、本当にさまざまな男女の関係が描かれているが、決して女性が虐げられているばかりでなく、誠実に愛される対象としての女性がいて、男性からの真実の愛がさりげなく書かれている。日々の肯定からくる人間を讃える安定な人間像が描かれている。焦燥の中にいる若い人に、早くこの人生肯定を知ってもらいたいのが故に推薦する。その他、人情裏長屋や菊月夜といった表題の冊子も推薦したい。

ダブリン図書館紀行

藤原恵理子 (情報企画課コンテンツ第一係)

金沢大学では、毎年、事務職員等を対象とした海外語学研修を実施しています。私は、今後、図書館を利用する留学生をサポートする機会が増えるだろうと考え、平成22年度に実施されたアイルランドでの約1ヶ月間の語学研修を受講しました。

アイルランド(共和国)は、イギリスの西側に位置するアイルランド島の南西部にあります。緯度のわりに気候は温暖ですが、雨が多いです。私は、首都であるダブリン市に滞在しましたが、伝統的な建物が多い一方で、近代的なデパート等もあり、金沢と共通点が多いように感じました。文学、音楽、歴史、お酒(ギネスビールやウィスキーが有名!)が好きの方には、自信を持ってアイルランドをお勧めします!

さて、今回は図書館報ということで、ダブリン市内の図書館をいくつかご紹介いたします。

まず、最初にご紹介するのは、金沢大学の協定校であるダブリンシティ大学の図書館です。私は、ダブリンシティ大学内にある語学学校に通っていたので、滞在中によく利用しました。規模としては決して大きくはありませんが、グループワーク用の部屋が17室用意されていること、250台以上のパソコンが配置されていること等が印象的でした。図書館に置いてあるDVDの中には、「となりのトトロ」や「魔女の宅急便」もありました。

次にご紹介するのは、アイルランド最古の大学であるトリニティカレッジの図書館です。有名な装飾写本である「ケルズの書」と、古い蔵書を納めている「オールドライブラリー」は、ダブリンの観光名所でもあります。私が見学に行ったときには、古い建物が並ぶ構内に、うっすらと雪が積もり、マントのようなロングコートをはおった男子学生が、コーヒーを片手に構内のガイドツアーをしており、まるで映画のワンシーンのようでした。

最後にご紹介するのは、アイルランドの国立図書館であるナショナルライブラリーです。こちらの見所は、アイルランドの劇作家・詩人でもあるW.B.イェーツの展示と、閲覧室です。W.B.イェーツの展示は、テーマに沿って小部屋が用意されており、展示方法がとても凝っていました。閲覧室は、円形の高い天井になっており、とても雰囲気がありました。

図書館は、その街や大学の、歴史や文化、教育に対する考え方を反映するものだということを改めて実感しました。ダブリンの図書館の、大切に保管されてきた古い蔵書や、そこに長時間いたくなるような建物は、ダブリンの歴史とそれを大事に思う市民の心を、私に教えてくれたように思います。金沢大学の図書館も、利用する人に、金沢や金沢大学の歴史を伝えられる図書館になっているかな?と考えながら、この経験を日々の仕事に生かしていきたいです。



語学学校のクラスメイトと



ダブリン市街地



ダブリンシティ大学図書館



トリニティカレッジ図書館



ナショナルライブラリー